

## 研究主題

# 児童生徒による学習評価の充実

—児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して—  
(2年次／2年計画)

## 1 問題と目的（主題設定の理由）

### (1) 本校の目指す学校像とこれまでの研究の取組

本校は、目指す学校像を「地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされるゆり支援学校」とし、児童生徒の自立と社会参加を目指し、明るく豊かな心の育成と教育的ニーズに応じた適切な教育活動を展開している。平成30年度からは学校運営協議会を設置し、特色ある教育活動を推進するとともに、地域交流・地域貢献を通して地域を元気にする学校づくりを推進している。

この目指す学校像を具現化するために、平成30年度からの2年間、研究主題を「主体的に人と関わる力を高めるために」とし、「合わせた指導」や「各教科」の授業づくりに取り組んできた。育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、単元・題材目標を設定し、「合わせた指導」と「各教科」の関連を意識した研究を進める中で言葉の表現が豊かになり、相手に合わせた対応や課題解決力の向上、学びを他の学習で生かす姿などの児童生徒の変容がみられた。加えて、教職員の変容として各教科の授業に対する意識の高まりや、「めあての提示」の定着、発問の精選などがみられた。しかし、今後の課題として、児童生徒自身が見通しをもち、本人が主体となる課題解決の機会や学びを自覚できる授業づくり、教科別の指導の充実、自己理解や自己評価の充実、児童生徒自身がPDCAサイクルに沿った学習を行う必要性が提起された。

### (2) 社会的背景

昨年度から小学校、特別支援学校小学部で全面実施される学習指導要領では、「生きる力 学びの、その先へ」と示され、学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理されている。その際、特別支援学校では学びの連続性を重視し、各学部や各段階、小・中学校の各教科及び高等学校の各教科・科目とのつながりを大切にしている。これまで領域・教科を合わせた指導が教育課程の中心として行われてきた知的障害特別支援学校においても、各教科の指導の充実は、今後取り組むべき喫緊の課題であることが示唆された。

平成28年12月の中央教育審議会答申では、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラムマネジメント」が求められている。その中では、児童生徒に「何が身に付いたか」（学習評価の充実）を改善すべき課題として挙げている。特別支援学校学習指導要領解説総則等編では、「学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである」と示し、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるためにも重要であると、指導と評価の一体化の必要性を明確に示している。

このように、児童生徒に何が身に付いたかを明確にしながら、児童生徒自身が次の学びや生活に生かすことのできる目標設定と振り返りの機会や、児童生徒本人が主体となる学習評価の在り方を検討し、充実に向けた実践を積み重ねる必要があると考える。

そこで、本校の目指す学校像、これまでの研究の取組、社会的背景を踏まえ、本研究主題「児童生徒による学習評価の充実」を設定した。

## 2 研究1年次（令和2年度）の成果と課題

昨年度は、研究副題を「各教科による授業づくりを通して」として、学部ごとに研究対象の教科を設定し、授業実践に取り組んだ。以下の表は、対象とした各教科と1年次の成果・課題である。

学部	対象教科	1年次 成果○ 課題●
小学部	国語科	○資質能力に合わせた事態把握と焦点化しためあての設定による、児童が分かる授業づくり ●「何が分かったか」を大切にしたり振り返り ●他教科との関連
中学部	保健体育科	○体育ノートの活用、動画による自己評価や友達と伝え合う場面の設定による学習評価の充実 ●評価から次の目標につながる効果的な振り返りの工夫 ●3年間を見通した指導計画
高等部	職業科・家庭科	○友達や職員など様々な人と関わりながら他の場面でも生かせるような授業展開の工夫 ●個の学びを集団の学びにできるような振り返りの工夫 ●学びの蓄積を日常的に活用できるような場面設定
寄宿舎	日常生活指導の場面	○生徒の願いを反映した具体的な目標設定 ○生徒同士が互いに学び合い、工夫する姿 ●生徒ができた、失敗したなど、実感を伴う活動の必要性

さらに、研究全体を通して2年次に向けての提言として、以下の3点のキーワードが挙げられた。

- ・教科の特性に合わせた学び方と学習評価
- ・学んだことを次につなげる、生かすことができる俯瞰的な授業計画
- ・児童生徒自身の「何を学ぶか」が自分事となる目標と評価、授業づくり

研究主題「児童生徒による学習評価の充実」の実現に向けて、児童生徒自身が何を学び、何が身に付いたかを実感し、学びを次の学習や様々な生活場面につなげていくための授業づくりを推進していく必要がある。

そこで、2年次は1年次の研究の成果を土台として、副題を「児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して」として取り組むこととした。

## 3 仮説

児童生徒による学習評価の充実を目指した各教科による授業づくりは、自分自身が何を学び、何が身に付いたか（評価）、さらにはこれから学ぶべきこと（次の目標）に気付くであろう。学習を振り返ることは、児童生徒の「できた!」「分かった!」などの学びの実感や達成感が得られ、次の学習への見通しと学習意欲を高めることにつながると考える。そういった学びにつながる経験を積み重ねることで、今後の予測困難な社会の中で、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、行動できる生きる力になるであろう。

**「児童生徒による学習評価の充実」とは、**

「何を学ぶのか分かる『めあて』（目標）が提示され、それに対する『振り返り』（評価）が児童生徒自身で行われていること。さらには、これから学ぶべきこと（次の目標）について、気付くこと」と定義する。

## 4 内容与方法

本研究は、以下のAPDCAサイクルの視点で2年計画の研究期間で検証する。

### 1年次

#### A：実態把握（アセスメント）

- ・児童生徒（中学部、高等部）、教職員に対して授業づくりに関するアンケートⅠの実施

#### P：計画

- ・授業デザインミーティングⅠの実施 ⇒年間指導計画、単元・題材計画の作成

#### D：授業実践

- ・「資質・能力の三つの柱での目標設定」と「学習評価の三つの観点での評価設定」の検討
- ・全校での共通実践事項の実施（下記に提示） ⇒APDCAを含む
- ・単元、題材計画の作成と評価（まとめりとなる単元・題材の評価）⇒C、Aを含む

#### C、A：評価、改善

- ・授業デザインミーティングⅡの実施 ⇒年間指導計画、単元・題材計画の評価と見直し
- ・児童生徒（中学部・高等部）、教職員に対して授業づくりに関するアンケートⅡの実施

#### 【4つの共通実践事項】（1年次）

- (1) 児童生徒による評価が可能な「めあて」の提示
- (2) 一単位、単元のまとめりでの「振り返り」の設定
- (3) 「めあて」と「振り返り」カードの活用
- (4) 「めあて」と「振り返り」の整合性の検討

### 2年次

- ・1年次のAPDCAサイクルの継続
- ・教科ワーキンググループ（以下、WGとする）の実施  
⇒学部研究会（年間13回）のうち、その一部（4回計画）を全校縦割りの教科WG（国語科WG、保健体育科WG、職業科・家庭科WG）で実施し、学部を越えた学校の教育課程という視点での一貫性や系統性を図る。
- ・授業デザインミーティングへの教科ワーキンググループメンバーの参加
- ・全校での共通実践事項（2年次）の実施（下記に提示）
- ・2年間の研究成果を教育課程検討委員会やキャリア推進委員会へ反映

#### 【3つの共通実践事項】（2年次）


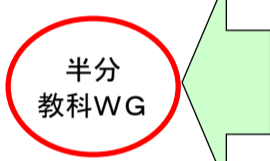

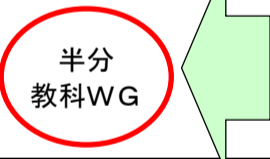
- (1) 「めあて」と「振り返り（まとめ）」の整合性の検討
- (2) 児童生徒が学びを実感できる支援の工夫
- (3) 児童生徒の学びがつながる支援の工夫

※共通実践事項を学部の実情に合わせてさらに落とし込み、具現化した研究内容・方法を各学部単位で設定することにした。

## 5 対象

小学部：国語科 中学部：保健体育科 高等部：職業科・家庭科 寄宿舎：日常生活指導の場面

6 研究計画

月	全体としての流れ	具体的な取組		
		全校	学部・寄宿舍	その他
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の研究主題、研究内容及び方法の検討、共通理解</li> <li>○学部等の研究内容、方法の検討</li> <li>○児童生徒一人一人の目指す姿の明確化（個別の支援計画）</li> <li>○単元、題材計画の検討</li> </ul> ⇒授業デザインミーティングの実施	<input type="checkbox"/> 第1回全校研（4月20日） ・全体研究の共通理解	<input type="checkbox"/> 第1回（4月26日） ・研究テーマ、研究内容・方法の検討	<input type="checkbox"/> 第1回拡大研（4月14日） ・研究内容・方法の検討
		<input type="checkbox"/> 授業デザインミーティングの実施 ～5月末 ⇒ ①授業者間、②関係者間での検討（授業アドバイザー、教科ワーキンググループメンバー含む）		
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校、各学部、寄宿舍、道川分教室の研究内容及び方法の共通理解</li> <li>○授業実践及び評価、改善</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 第2回全校研（5月19日） ・各学部、寄宿舍の取組、道川分教室の取組の共通理解 ・学習指導案の様式の共通理解	<input type="checkbox"/> 第2回（5月24日） ・研究内容、方法の計画の提示	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業実践及び評価、改善</li> <li>○授業研究会の実施</li> </ul>		<input type="checkbox"/> 第3回（6月21日） ・研究対象の授業の授業実践、評価、改善を進める。	<input type="checkbox"/> クォーター研修会の実施（月1回程度）
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業実践及び評価、改善</li> <li>○授業研究会の実施</li> <li>○単元構成や支援の評価、見直し</li> <li>○児童生徒の変容を検証、評価、目標の見直し</li> </ul>	※教科ワーキンググループ <input type="checkbox"/> 授業デザインミーティングの実施:評価、改善 ～8月末	<input type="checkbox"/> 第4回（7月27日：小中学部 8月4日：高等部） ・単元計画や支援の検証 ・児童生徒の変容の検証 ・目標に対する評価、見直し	研究成果配信 1次案内 配付
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後期に向けた単元構成、支援の検討、共通理解</li> <li>○学級及び学部内で児童生徒の目標の共通理解</li> </ul>		<input type="checkbox"/> 第5回（8月17日） ・後期の学部の研究、単元計画や教師の支援の共通理解 ・児童生徒の目指す姿を学級、学部内での共通理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校授業研究会（年3回）                小： 9月27日                中： 9月 6日                高： 10月28日</li> <li>○学部授業研究会                小： 8月31日                中： 6月28日                高： 10月 7日</li> <li>※学部の計画で実施</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業実践及び評価、改善</li> <li>○授業研究会の実施</li> </ul>		<input type="checkbox"/> 第6回（9月15日） ・授業実践、評価、改善	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業実践及び評価、改善</li> <li>○授業研究会の実施</li> </ul>		<input type="checkbox"/> 第7回（10月13日） ・授業実践、評価、改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寄宿舍参観週間                ・寄宿舍の計画で実施</li> <li>○年次研修                ・対象者と調整</li> <li>○他校（特別支援学校、由利本荘・にかほ地域の小・中学校）の授業研究会、公開研究協議会等への参加</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業実践及び評価、改善</li> <li>○授業研究会の実施</li> <li>○今年度の取組の成果と課題、児童生徒の変容の検証</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 教育課程検討委員会 <input type="checkbox"/> キャリア推進委員会           との連携	<input type="checkbox"/> 第8回（11月22日） ・授業実践、評価、改善 ・授業実践における成果と課題、児童生徒の変容の検証	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度の成果と課題、児童生徒の変容の明確化</li> </ul> 「研究ゆり」の執筆		<input type="checkbox"/> 第9回（12月20日） ・今年度の成果と課題、児童生徒の変容の検証 ・研究成果の配信に向けて	研究成果配信 2次案内 配付
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度の成果と課題の共通理解</li> <li>○次年度の方向性の具体化</li> </ul>		<input type="checkbox"/> 第10回（1月11日） <input type="checkbox"/> 第11回（1月17日） ・今年度の成果と課題、児童生徒の変容の共通理解 ・研究成果の配信に向けて	<input type="checkbox"/> 第2回拡大研（1月24日） ・各学部、寄宿舍の成果と課題の共通理解 ・研究成果の配信に向けて
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度の成果と課題の共通理解</li> <li>○次年度の方向性の具体化</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 第3回全校研（2月4日） <input type="checkbox"/> 第4回全校研（2月28日） ・各学部・寄宿舍の成果と課題を共通理解する。 ・次年度の取組を検討する。 <input type="checkbox"/> 出張報告会（同日）	<input type="checkbox"/> 第12回（2月22日） ・今年度の成果と課題の共通理解 ・次年度の取組の検討	研究成果配信 ※オンラインでの配信 予定（2月14日）～
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次年度の方向性の共通理解</li> </ul>		<input type="checkbox"/> 第13回（3月14日） ・次年度の取組を共通理解する。	

7 各学部・寄宿舎の研究概要

全体	<b>「児童生徒による学習評価の充実－児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる授業づくりを通して－」</b> (2年次/2年計画)			
内容方法	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 22%;"> <b>A：実態把握</b>                      ・1年次の成果と課題                      ・授業づくりに関する職員アンケート①                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 22%;"> <b>P：計画</b>                      ・教科WGメンバーを活用した授業デザインミーティングの実施 →年間指導計画、単元、題材計画の作成                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 22%;"> <b>D：授業実践</b>                      ・研究対象の各教科の授業実践                      ・全校での共通実践事項の実施                      ・全校、学部授業研究会の実施                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 22%;"> <b>C、A：評価、改善</b>                      ・単元、題材計画の評価、改善                      ・教科WGを活用した授業改善                      ・授業づくりに関する職員アンケート②                 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【3つの共通実践事項】</b>                      ①「めあて」と「振り返り（まとめ）」の整合性の検討 ②児童生徒が学びを実感できる支援の工夫 ③児童生徒の学びがつながる支援の工夫                 </div>			
学部(対象)	小学部 (国語科)	中学部 (保健体育科)	高等部 (職業科・家庭科)	寄宿舎 (日常生活指導の場面)
1年次の成果○課題●	○資質能力に合わせた事態把握と焦点化しためあての設定による、児童が分かる授業づくり ●「何が分かったか」を大切にしたり振り返り ●他教科との関連	○体育ノートの活用、動画による自己評価や友達と伝え合う場面の設定による学習評価の充実 ●評価から次の目標につながる効果的な振り返りの工夫 ●3年間を見通した指導計画	○友達や職員など様々な人と関わりながら他の場面でも生かせるような授業展開の工夫 ●個の学びを集団の学びにできるような振り返りの工夫 ●学びの蓄積を日常的に活用できるような場面設定	○生徒の願いを反映した具体的な目標設定 ○生徒同士が互いに学び合い、工夫する姿 ●生徒ができた、失敗したなど、実感を伴う活動の必要性
2年次の目指す姿	・国語科で学んだことを生活や他教科などで生かしている。 ・相手の話や問い掛けに気付いたり、考えて答えたりする。	・毎時間の学びを実感し、次の目標に向かって運動を楽しむ。 ・友達との伝え合いを通し、ポイントに気付き、技能が向上する。	・学習の振り返りを通して、学びを実感する。 ・個の学びを全体の学びとして共有し、自分事として生かす。	・目的をもって、意欲的に生活する。 ・様々な場面で対応できる生活力が身につく。
内容方法	・学習指導要領や子ども理解シートを活用した実態把握 ・板書記録等を活用しためあてと振り返りについての情報交換 ・エピソード記録の蓄積と分析 ・他教科等との関連に関する検討	・視覚教材、体育ノート、友達同士の学び合いの場の継続、発展 ・毎時間、単元、年間、3年間の学びがつながる指導計画の検討(性教育や武道の扱い、他学部) ・「自分で自分を振り返る力」に着眼した事例研究	・自分事として捉えられる「めあて」の設定 ・学んだことを実感するための「振り返り」一覧の作成 ・学びを次に生かした事例一覧の掲示 ・学びを積み重ね、日常的に活用する展開の工夫	・おおぞらシートを日常的に活用した共有と連携 ・日常生活や行事の中で、生徒自身が調べ考え選択する場面の設定 ・生徒同士で、声をかけ合い、教え合う場面の継続 ・生徒の気付き、学びの共有(記録、連絡会の工夫)